

大阪市立3校統廃合を計画

維新大阪府・大阪市政のもとで公立高校つぶしの強行が続いています。大阪府教委は7月、教育委員会会議で市立高校3校を1校に統廃合する方針を決定しました。市民や卒業生らから「納得できない」「学ぶ場を奪わん」としてと撤回を求める声が上がっています。

(大阪府・小浜明代)

統廃合の対象とされたのは西高校(西区)、南高校(中央区)、扇町総合高校(北区)の3校です。扇町総合高校の校地に2022年4月開校で新校をつくるとしています。

特色ある伝統校

市立の高校の統廃合は子どもの数の減少を理由に府立高校・大阪市立の高校7校程度を廃止する再編整備計画(14年度～18年度)に基づくものです。少子化のほか、約60億円の予算をかける国際バカロレア認定コースをもつ「公設民営」・中高

高校なくさんといて

一貫校の設置(19年4月)に伴う高校の再編整備が必要などとしています。しかし、市内中心部(北区・中央区・西区)の人口急増による小学校の教室不足を、廃止した高校の教室をあてることで解消する狙いがあります。

西高校はその前身も含めて創立96年、南高校は80年、扇町総合高校は94年の歴史と伝統があります。



高校つぶしは許さないと開かれた「大阪府教育シンポジウム」11月8日、大阪市

市高教「教育条件整備こそ」

す。それぞれが豊かな特色を持ち、地域に根ざし、社会に貢献してきました。西区の高校は西高校のみで同校が廃止されれば区内に高校がなくなるといっても過言ではありません。

新日本婦人の会西支部では「私も西高校を卒業した。なくさんといてほしい」「西高校の英語教育にあげられて進学してくる生徒もいる」と話題に。ある会員は女子生徒から「とても雰囲気がい学校。なくなるのは嫌な感じ」という声を聞きました。

クローズアップ

議論わずか10分

統廃合方針について議論した教育委員会会議では「発展的解消と理解」など、委員の発言はすべて統廃合賛成。わずか10分で終了しました。傍聴していた大阪市立高等学校教職員組合(市高教)の河内正副委員長は「統廃合されれば、9学級360人の学ぶ場が奪われる。非常に深刻な中身を議論しているということが全く感じられない」と憤ります。

大阪では府教委が、3

年連続定員に満たない府立高校を再編整備の対象にするという全国でも異例の「府立学校条例」を適用し、すでに池田北高校、咲洲(さきしま)高校、西淀川高校の3校の募集を停止しています。

今後、大正高校と泉尾高校の統廃合を計画しており、9月にはさらなる統廃合対象校(案)を選定するとしています。

過大な学級規模

大阪の公立高校(全日制)の学級規模は1学年あたり8学級で全国平均(1学年あたり6学級)からみて過大です。

市高教は見解を発表(7月25日)し、「『少子化』をいうなら『学級の定員を40人から35人にし、1学年を全国平均並みにする』など教育条件を整備・拡充することで対応すべきだ」と主張。統廃合計画の白紙撤回を求めています。「公設民営」学校を設置するより既存の市立高校の教育条件整備に予算を回すべきだとしています。

3校の関係者に共同を呼びかけていくとし、27日には「市立高校の教育を考えるつどい」を開きます。